

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500080		
法人名	有限会社 花水木		
事業所名	グループホーム ジョイナス		
所在地	福岡県宮若市本城722		
自己評価作成日	令和7年2月22日	評価結果確定日	令和7年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「日々発見・日々感動・共に生きる」を理念に基づき、昨日出来なかった事が今日出来るの発見が出来、共に喜び合うことが感動に繋がっています。「食事」は大きな楽しみで美味しいお米、旬の食材を使用して手作りの物をお出し、「食べることは元気の源」で楽しんで頂けるようにしています。体調に問題ない日は毎日の入浴が基本です。清潔を保ち、また身体の観察もしています。ケアに関することはその都度話し合い、よりよいケアが出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝継続している理念の唱和は理念の意識付けや振り返りの機会となり、笑顔には笑顔でうつむきがちであれば寄り添って声をかけ、入居者の何気ない言動に職員の笑みがこぼれている。日々の暮らしぶりは面会時やラインで報告し、年1回毎月の暮らしぶりを写真を多用しユーモアやウエット溢れる文面のホーム便り、理念に謳った「日々発見、日々感動、ともに生きる」暮らしを報告している。5年ぶりの餅つき大会は民生委員や民生委員の声かけで参加した外国籍のボランティア数名などで大いに賑い、家族や地域代表、警察や消防署職員などの参加で開催している運営推進会議は、参加者から「笑顔に戻った、書いた文字が読める」との謝辞や防犯等の情報提供、市担当者に率直な意見があった。今後も家族や地域から篤い信頼を培い、地域密着型サービスの展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム ジョイナス**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小さな発見、感動があり続け、社会と共に生きていく。そのつなぎ手となるようとする理念を見やすい所に掲げ、仕事の始まりに確認している。	毎朝継続している理念の唱和は、理念の意識付けや振り返りの機会となっている。職員は理念を誦んじ、入居者の何気ない言動に「うふふ」と笑みがこぼれると話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で中々地域の方との交流ができていないが、昨年餅つき大会を行った。	階下のデイサービスと合同の餅つき大会が、5年ぶりに再開している。民生委員や民生委員の声かけで参加した外国籍のボランティア数名などの参加で大いに賑わい、入居者はエプロンがけでつくたての餅を丸めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行うことが出来なかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・警察・消防・地域の有職者・市役所・ご家族の方々に参加をお願いしている。以前より警察・消防の方の参加が増え意見交換する機会が増えた	家族、地域代表の自治会長や民生委員、警察・消防・市の職員などの参加で居間で開催し、会議録を入口で公表している。前回の会議では、参加者から「笑顔が戻った、書いた文字が読める」との謝辞や防犯等の情報提供、「報告書の増加に配慮できないか」など、率直な意見があった。	書面やラインで運営推進会議内容を報告し、防災など状況に即した議題の設定で関係機関から情報提供や意見を伺うなどの工夫で、運営推進会議をさらに活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、事業所の状況やサービスの取組みを伝えるようにしている。書類関係や研修に関しても協力体制をとり連携を深めている	市担当者からの居室状況の問い合わせに对应し、昨年夏のクラスター発生や転倒などの事故を報告するなど、日頃から報告・連絡・相談体制に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し事業所取組みを報告したり、身体拘束に関する資料を配布し共に学んで頂いている。2か月に1回行っている。職員内部研修は月1回の勉強会に取り入れて年2回目標にしている	運営推進会議で身体拘束適正化委員会を開催し、適正化委員会の会議録を整備している。身体拘束や虐待に関するアンケート、地域同業者協議会や内部の研修で、適切なケアに努めている。職員の大声や声のトーンは随時管理者が指導し、厨房から見える位置に鏡を設置して入居者間のトラブルを回避している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待認識の為の基礎知識の資料を職員全員で読み合わせし確認をしている。言葉のかけ方についておかしいと思われる遣い方はその都度声をかけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度についてはパンフレットなど入口に用意し、相談できる窓口の紹介が出来るようにしている。また職員にはミーティングなどでパンフレットを配り勉強の機会を持つようにしている。	後見制度を活用されている入居者が1名あり、後見人の来訪時に暮らしぶりを報告している。関係機関と協議したが、外国籍に対応できる後見人が見つからず、活用に至らなかった入居者もある。	今後さらに多様な家族構成や経済状況が予測されることから、日常生活自立支援事業の資料を整備し、成年後見制度との違いや内容を学ぶ機会を設けられることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などでホームで出来ること、出来ないこと、また事業所のケアに関する考え方や取り組みについても十分に説明している。利用者の方や御家族の方の話を傾聴し、十分納得いただいてからの契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人や御家族の方が意見や思いを遠慮なく伝えられる雰囲気作りを心掛けている。出された意見や苦情については速やかにミーティングで話し合い対応できるようにしている。	入居者の意見は反映に努めている。来訪時だけでなくラインで暮らしぶりを報告している家族が多く、意見を促す機会としている。タイムリーな報告は好評で、ホームからのお願いや連絡は既読で確認している。年1回、毎月の暮らしぶりを写真を多用しユーモアやウエット溢れる文面のホーム便りで、理念に謳った「日々発見、日々感動、ともに生きる」の暮らしを報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや随時の個人面談など職員の意見や要望を聞くようにしている。また日頃からコミュニケーションを図るように心掛けており問いかけや聞き出しに気配りをしている。	月1回、日勤後に開催しているミーティングは勤務扱いとし、意見の表出を促している。年度末の個人面談は、キャリアアップシートに沿ってベースアップを話し合う場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備をしている。開設当初から社会保険労務士と契約しており、職場環境の条件の整備に努めている。また働き方改革にのっとり、職務に影響ない限り自由に有給休暇をとれる環境を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	正職員もパートも分け隔てなくチームの一員として働いてもらっている。研修ミーティングも同じように参加してもらい、職員の質の向上に向けた育成が出来るよう計画している。また資格取得に向けた研修には補助を行うなど積極的な後押しをしている。	職員のロコミなどで入職した25歳～72歳までの職員が、常勤や非常勤、夜勤専従等、夫々の状況に応じて勤務している。短時間勤務やシフト等の希望が叶い、外部研修参加、認知症実践者や管理者研修、資格所得の費用等を支給し、眠りスキヤンの活用で生産性の向上を図っている。系列事業所から異動し10年目の職員は、働きやすいと壁紙作りに力量を發揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者・管理者は社会福祉協議会の研修参加で啓発運動に取り組んでいる。また職員も研修会参加で人権教育・啓発運動に取り組んでいる。	年間研修計画に身体拘束や虐待の防止、ハラスメント研修を組み入れ、身体拘束適正化や虐待防止委員会を通じて、人権研修や啓発活動に取り組んでいる。	入居者と職員の人権擁護は同義であることから、カスタマーハラスメントを組み合わせたハラスメント指針の整備や周知を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できる計画をたてている。研修報告はレポートにまとめてもらい全職員が閲覧出来るようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者で作っている協議会に参加し、勉強会・研修会などで情報交換・交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人のサービス状況やご家族のご苦勞などの経緯についてゆっくりと聴き、ご家族の方が何を希望しているのか、また不安に対して出来ることはすぐに実行・対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況などを確認し、何から取り組むのかを相談を繰り返す中で見極めていき、必要なサービスへとつなげていく中で信頼関係を深めていくようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんで頂いたり、台所の片付けを手伝って頂いたりして助けて頂いている。おやつ作りも一緒にしたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時などに会話を心掛け、相談や要望の言いやすい雰囲気作りを心掛けている。本人様を共に支えいくことを大切にし、本人様とご家族の絆を第一に考え、程よい関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知人友人、またご家族親類の方などについても会いに来て頂けるような明るい開いたホームを目指している。コロナ禍以降も距離を保ち会話をしていただいている。	後見人の来訪を楽しみにしたり、遠方から帰省された家族と誕生日を祝っている。パンの訪問販売は馴染みとなり、梅や桜、菖蒲、彼岸など季節毎に花見に出かけるなど、馴染みの関係継続や馴染みの場へ外出を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有して、毎日のおやつ時間・食事・レクリエーションの時間は職員も一緒に会話を持つようにしたりして、利用者同士の関係が上手くいくように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様、ご家族様にも相談などの支援を心掛けている。また入院退去となった利用者様のお見舞いにも3か月から半年に1回ぐらいの割合で次の施設が決まるまでは会いに行っている。ご逝去の連絡が入ると必ずお通夜かお葬式にお参りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話をじっくりと聞きながら心身の状況を把握しようと努めている。	基本シートに生活歴や家族構成などを整備し、日々の関りを通じて夫々の思いや意向の把握に努めている。笑顔には笑顔で、うつむきがちであれば、寄り添って声をかけて思いを伺う支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをじっくりと聴き本人の全体像を理解するよう努めている。その際には本人の過去や大切にしていることに触れるという自覚を持ち、本人のケアに活かすという目的を持って聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から一人一人の一日の過ごし方、生活リズムを理解するとともに出来ないことより出来ることに注目するようにし、その全体像の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中で思いやりや意見を聴き、プランの見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に評価を行っているが、変化が大きい方や課題クリアが難しい方は、職員全員で検討を行って、現状に合った介護計画の作成につなげ、本人と家族の同意を得るようにしている。	担当職員が中心となって6か月間記載できるモニタリング表に結果や気づきを記載し、現状に即した介護計画を作成している。トロミを付けた刻み食でむせを防止し、安全な立ち上がりや洗濯物たたみなどでできそうな事を支援したり、毎日カラオケで好きな歌を歌い、好きなビール(ノンアルコール)を誕生日など機会ある毎に提供し、気にいらぬ入居者への暴言などを回避している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体状況及び日々の暮らしや本人の言葉などを記録している。いつでもすべての職員が確認できるように情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ本人の意見を聴きながら、また家族と相談しながら、ほかの事業所の意見なども参考にしながら出来る限り希望に沿った支援を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・地域の民生委員の方との交流により地域資源の把握に努め、本人に必要なサービスを利用できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には事業所の協力医の他、かかりつけ医や希望する医療機関があれば、家族と利用者を確認を行い、適切な医療を受けれるよう支援している。また訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と協力関係を結んでいる。	全入居者が協力医療機関から定期的に訪問診療を受けている。専門医療機関や専門科受診は家族同行をお願いしているが、職員が同行する場合もあり、随時受診状況を家族に報告している。週1回の訪問看護で健康を管理し、早期発見や治療につなげている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師による訪問で利用者の健康管理を行い、状態の変化に応じた支援が出来るようにしている。また看護師の訪問がない日も、体調に変化があればすぐに報告し、迅速な対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に身体状況、服薬状況などの必要な情報を提供している。病院の地域連携室とも連絡をとり状況確認している。退院時には医療機関よりサマリーを提供してもらい、医療経過を把握し、退院後のよりよい支援に繋げている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえて医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、意志を確認しながら取り組んでいる。また意向の変化には何度でも対応可能な事を伝えるようにしている。	ホームで最期をと希望されていた方は、ベットから転落し大腿骨骨折で入院され、既往症の悪化で入院先で逝去された。これまで2名を看取った経験を活かし、本人や家族の意向を汲み取り話し合いを重ね、かかりつけ医との情報共有や連携で、今後も看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、ホーム内にマニュアルを置いていつでも対応できるようにしている。新型コロナウイルスに関する対応ファイルも用意している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消化器の使い方などの訓練を年2回行うようにしている。地域の協力体制については隣接する住宅にお願いしたり、運営推進会議を通じて組合などにもお願いしている。	年間研修計画にBCP研修を組み入れ、BCPの更新に取り組んでいる。年2回の火災訓練のうち1回は消防署の協力で実施し、運営推進会議で報告している。ホームが開所しているビルは耐震構造で、水害時は2階に留まる予定である。以前台風襲来時に、階下のデイサービスで利用者1名の避難を受け入れている。	地域との協力体制を構築するために、運営推進会議でBCPの研修やシュミレーションにおける課題や対応について報告されるとともに、地域同業者協議会と一体となり、市の防災体制に関する情報の把握を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の「尊厳」を大切にしている。職員の勉強会では利用者の方を人生の先輩として敬い、かける言葉の使い方、態度について細かく話し合っている。特に排泄時には羞恥心や誇りを傷つけることのないよう支援している。	氏名での呼称を基本とし、慣れ親しんだ○○ちゃんや、ご夫婦で入居の場合は受け入れ易い「お父さん」「お母さん」となっている。大声や声のトーンに留意した声かけで、夫々の尊厳保持に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の思いを伝えやすい環境を心掛けている。言葉だけではなく、しぐさや表情などのも気を配っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調、気分にも配慮しながら、本人の気持ちを尊重して、出来る限り個別性のある支援を心掛けている。全体で行うレクなどは一人の好みに偏らないように様々なものを取り入れている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当者が衣類等の整理整頓を行っている。着たい洋服を清潔な状態で何処に何があるかを見やすい状態にしている。おおよそ6週に1回美容師にきていただきカットをしおしゃれを楽しんでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時ボードにメニューを書き献立の説明をして食事に興味が湧くように工夫している。食事時には音楽を流し、介助が必要な方には必要な分だけ食事介助を行っている。	誕生日は希望の献立で、ちらし寿司や饅頭、パンのスペシャルケーキで祝い、同席された家族から後日ケーキ用ナイフ等の寄贈があった。行事食には漆塗りの膳や食器を使用し、目でも楽しめる食事やスイーツがホーム便りに掲載されている。職員も同じテーブルで同じ食事をとりながら、見守りや声かけ、介助をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と水分量・食事摂取量を記録し状態を把握している。嚥下状態には特に気を付けている。食欲が無い時には甘酒やゼリーなどで様子を見ることもある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る方には声掛け見守りをし、出来ない方に関してはケアを支援し、口腔内の衛生や嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っている。介助方法を職員全員が把握している。排泄の失敗を極力減らし、トイレでの排泄が出来るように支援している。排泄の仕方が分からなくなった方のケアを職員全員で話し合い、本人を傷つけることなく排泄できるような誘導をしている。	排泄の自立もあるが、尿意や便意の有無、排泄の一連の行為で何ができないかをアセスメントし、トイレでの排泄を基本として、パターンに沿って夫々に応じた排泄を支援している。夜間の安全な排泄支援に眠りスキャンを活用している。協力医療機関入院時に職員の気づきを報告し、尿カテーテル留置が抜去されリハビリパンツ使用となった入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人の水分チェックを行っている。適度な運動などや繊維質の多い食材の利用などで便秘の予防に努めている。ほかに医師・看護師との連携で排便の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴している。体調や気分などのも気を付けながらしている。拒否がある方いるが時間をおいて声掛けをしたりして、毎日のお風呂を楽しんでいただいている。	毎日午後から入浴を支援している。同性介助の希望に応じ、入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否する入居者の「気持ち良かった」を目指し、職員を変えたり「明日は診療日だから」など、声かけや対応を工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また一人一人の希望などを顧慮してゆっくりと休息がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしており薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時にはいつもより詳細な記録をとるようにしたり、薬を管理し、誤薬や飲み残しのないように確認の徹底を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。袋たたみ・洗濯物たたみ等お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出もままならない中で、車ではあるが近くの施設にアートフラワーを見に行ったりした。	車椅子の入居者が数名おられるため分散して車に乗り、全員で季節の花見やショッピングを兼ねて外で食事をするなど、車椅子で移動可能な場所に出かけている。地区社会福祉協議会から、外出時のボランティア派遣の申し出があった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を家族から預かり事務所が管理している。購入したいものがあれば、職員が購入してきている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけていただいている。ご家族の電話も取り次ぎ、本人・家族が安心されるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は天井を高く十分な採光をとりられている。また広い壁を利用して利用者・職員共同で季節感のある壁絵を毎月作成し、飾りつけをしている。ホールカウンターに季節の生花やグリーン類を置き季節を感じて頂いている。加湿器等を設置快適な環境作りに取り組んでいる。	天井の高い居間は室温を均等にするために天井にファンを設置しているが、入居者の希望で止めている。清掃が行き届いた共用空間は居心地良く、今月は「丸窓に満開の桜や満月」の壁絵が掲示され、寄贈のさげもん、職員手作りのひな人形やチューリップが飾られるなど、春爛漫となっている。体操の掛け声やレクレーションの歓声が響き、ソファコーナーはカラオケの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、絵画や花を飾り居心地の良い環境づくりに配慮し、一人で過したり、入居者様同士がくつろげるペースがある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットを備え、馴染の物が出来るだけ持って来られるようにしている。居室にもタンスや写真など思い出のある品物が持ち込まれ、居心地のよい雰囲気作りを可能にしている。	花の名前が付けられた居室の入口は、表札や花飾りを掲示している。居室は整理整頓で動線を確保し、自宅から椅子やテレビなどが持ち込まれ、干支の書初めを掲示している。先日百歳になられた方の居室は、祝いの横幕や表彰状、家族の思いが溢れたメッセージが額縁に入れて掲示され、居心地良い設えとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、必要な場所には手すりを設置したり、安全に暮らせるよう配慮している。		